

通信教育部

スクーリングレポート

全国で約7,000名が在籍する日本福祉大学通信教育部では、在宅学習だけでなく、全国17都道府県18都市で対面形式のスクーリング講義を開講しています。職業や年代の異なる学生同士が意見交換することで生まれる学びは、オンデマンド学習にはない魅力です。今回は、横浜会場で開催されたスクーリングの様子を紹介します。



REPORT

科目名 単身世帯と社会政策

2017年9月30日(土)、10月1日(日)
神奈川県横浜市／新都市ホール

テーマ

家族・世帯のかたちが大きく変化している—。
単身世帯であっても暮らしやすい社会にするために、
社会保障制度の在り方や地域づくりなどを考察する。

現在、全国民の7人に1人が一人暮らしをしています。顕著に増えているのは、中年層や高齢者の一人暮らしです。すでに50代男性の約5人に1人、80歳以上の女性の4人に1人が単身世帯となっています。この講義では、単身世帯増加の実態とその背景について概観しました。その上で、「貧困」「孤立」「介護時の対応」など、単身世帯が陥りやすいリスクについて考察しました。そして、社会保障制度の強化や地域づくりなど「支え合う社会」をいかに構築していくのか、を考えました。確かに、重苦しい現実はあるのですが、未来は自分たちで変えられます。一市民として、福祉現場を担う者として、今後の社会の在り方を考えてほしいと思います。

講師：

福祉経営学部
医療・福祉マネジメント学科
(通信教育)

藤森 克彦 教授



1 担当講師による講義



単身世帯の増加の実態を分析し、
リスクと政策を考察

単身世帯がなぜ増加し、それによって社会にどのような影響をもたらすのか、さまざまなデータに基づいて理解するとともに、そのリスクを回避するためにどのような対応をしたらよいのかを考えていきます。最終的には、家族の支え合いを前提に構築されてきた日本型福祉国家の今後の方向性まで議論しました。

2 ゲスト講師による講義



実例をもとに、
実践的な理解を深める

3名のゲスト講師を迎え、野州市市民生活相談課長 補佐の生水裕美氏には「地方自治体が取り組む生活支援について」、法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科教授の湯浅誠氏には「社会福祉士とソーシャル・アクション」、NPO法人遊悠楽舎代表／一般社団法人インクルージョンネットかながわ代表 明石紀久男氏には「生きること、生かすこと、生きあうこと」をテーマにお話しいただきました。

3 グループワーク



どのような取り組みが必要か考え、
発表する

「単身世帯が増えていく中、これからどのような取り組みが重要だと考えるか」を、①ソーシャルワーカーとしての取り組み、②地域社会としての取り組み、③国(社会)としての取り組みの3方向について各自で考察。その後、6人一組のグループに分かれて話し合い、グループの方針をポスターにまとめて発表しました。